

議事概要記録

開催日時	平成 26 年 3 月 1 日 11 時 30 分～13 時 20 分	開催場所	ホテル浦島本館 2 階 シャトルルーズ
会議種別	平成 25 年度 第 7 回理事会	議長	畑 忠良
		書記	田中 規仁
出席者 〈敬称略〉	玉置 達紀、竹中 正人、畑 忠良、木下 博之、大石 博晃、田中 規仁、 蓬台 克之、丸澤 佳子、栗林 伴有、瀧口 良重、今西 数彦、瀧谷 雅彦、脇村 小津江、 村田 正吾、勝山 浩樹 15名		
欠席者 〈敬称略〉	田中 久晴、須賀 洋、	オブザーバー	
次 第			
議事概要	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 会長報告 第 6 回常務理事会報告 事務局報告 学術部報告 表彰審査委員会報告 経理部報告 各種委員会報告 <ul style="list-style-type: none"> 公益事業活動 定款・渉外 精度管理 データ標準化 会誌編集 ホームページ 会報・行事予定 <p>連盟</p> <p>審議事項（届出順）</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設長連絡会議について 学術部より 会報について 次年度総会について その他 		
	<p>冒頭に会長から挨拶があった。</p> <p style="text-align: center;">報告事項</p> <p>会長報告</p> <p>日臨技について、</p> <p>1 月 24 日（金）に日臨技情勢報告会と賀詞交換会、1 月 25 日（土）全国幹事会が日臨技事務所はじめ東京で開催された。日臨技として今後、組織率の向上（現在の会員数は約 52000 人と有資格者 60%弱で、会員入会促進による組織力の強化が課題で有るとのことであった。また、生涯教育履修率の向上等の生涯教育研修制度を見直し、技師免許更新制度も厚労省に要請するとのことであった。</p> <p>鼻腔、咽頭分泌液等の検体採取についての法改正が今国会にて承認される見込みで</p>		
決議事項 及び 継続事項			

あるとのことであつた。

日臨技事務局機能の強化として、昨年春に事務部長を、昨年秋に元厚労の職員である事務局長を採用した。日臨技と厚労の連携が出来たことにより、中医協専門委員に宮島会長が参画することが出来たとの報告であつた。この他に、政策調査担当者等数名の採用を考えているとのことである。

検査説明・相談のできる技師の育成を、都道府県自主企画による向こう3年間にて5000人を育成したいとのことであつた。

公益事業として、11月に全国健康と検査展を主催として開催し、健康に関する知識の普及・啓発を図るとのことであつた。

認定心電技師の受験要綱等について、平成25年度は従来そのままで行うが、次年度から日臨技一本で行うとのことであつた。

平成26・27年度日臨技会長として、宮島喜文氏が無投票当選した。

近畿支部・近臨技関連について

近臨技は今年度をもって解散する。解散に伴う近臨技の残余金については、次期学会開催県（大阪府、京都府、奈良県、滋賀県）と福井学会（第53回）不足金（日臨技から補填が無い場合）に充てることとした。日臨技が補填した場合は、兵庫学会に充てることとなった。

近臨技解散に伴い、各府県企画の研修会については、企画を行なう府県技師会会員以外を非会員扱いとして参加料を徴収することが有る。この場合、研修会案内には明記することとした。また、日臨技助成を受けた企画についてはこの限りではないとのことであつた。

和臨技関連

特になし

他団体関連

特になし

第6回常務理事会報告

日臨技指定事業の「全国健康と検査展」がフル規格開催の必要性が出てきた。次年度の一般市民啓発講演会として既に、「医療セミナー in わかやま」が理事会承認されていたが、「検査展」と「医療セミナー」とのかかわりも含め再考する必要性が出た。審議の結果、当初通り「医療セミナー」を開催し同会場にて並行して「検査展」を行うこととなった。また、別途実行委員会を立ち上げることとなった。

ピンクリボン南紀の事業活動に当会の名称を共催・後援使用したい旨の申し出が有り、審議した結果承認することとなった。

第66回保健文化賞候補者の推薦について、過去9回のアジア研修を含めた今日までの和臨技HIV関連事業の取り組みについて、申請することを審議した。理事会に提案し承認を得たので手続きに移ることとなった。

（その他会議録を参照のこと）

平成 26・27 年度 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会会長立候補の協力要請が長野臨技からあり、宮島喜文氏が無投票当選であると日臨技から告示があった。

乳がん検診受診の啓発周知について紀南病院石水弘子技師に講師依頼があった。

和歌山県立医科大学医学振興会記念助成事業について、当会 3 事業（学術部合同研修会・和臨技精度管理事業・医療セミナーin わかやま）交付決定通知があった。

ピンクリボン紀南 26 年度活動行事に当会の後援名称使用依頼があった。

第 63 回日本医学検査学会 座長決定通知があった。

日臨技近畿支部学術部門委員・部門長・学術部長選出依頼があった。

学術部報告

平成 25 年度推進事業について 20 回採用された。

第 63 回日本医学検査学（開催日 5 月 17 日（土）18 日（日）、新潟市朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターなど）に座長推薦 2 名（臨床化学 堀端伸行 技師、生理機能 竹中正人 技師）し、決定通知が有った。

平成 25 年度日臨技近畿支部 血液検査研修会（2 月 15 日（土）16 日（日）和歌山県立医大 生涯教育センターにて、和臨技 楠血液検査班班長担当）が開催された。降雪により参加できなかった方もおられ、資料送付したとのことであった。

平成 25 年度学術部研究班活動として、勉強会 35 回（基礎 3 回、専門 32 回）今年度予定がすべて完了した。

班長班員会議が 2 月 22 日に、平成 26 年学術部研究班体制、平成 26 年度研究班勉強会企画、日臨技近畿支部学術部門員の選出について行われた。

4 月 26 日予定の和臨技オリエンテーションでの学術部ミニレクチャーとして微生物、細胞病理から行うこととなった。

第 17 回学術部一泊合同研修会について、7 月 5 日（土）6 日（日）紀州路みなべを予定とのことであった。企画内容について臨床講演と、ディスカッションを中心とした症例検討（輸血検査、生理機能検査）を企画中とのことであった。

日臨技近畿支部学術部門体制について、臨床化学と免疫血清が今後統合される方向性にあり、和臨技もいずれ統合するであろうとのことであった。

基礎の勉強会 3 回の中では少ないのではと質問が有ったことに関し、基礎項目は学会関連事業や合同研修などにシフトし、勉強会・研修会以外にも参加を促すことをねらい、あえて少なくしているとの学術部長からの回答であった。

表彰審査委員会報告

平成 25 年度会長賞を会誌 和臨技 第 41 巻投稿論文より、社会保険紀南病院の佐竹理恵技師「胎児超音波スクリーニングの有用性」を選出した。

平成 25 年度学術奨励賞は第 35 回和歌山県医学検査学会一般演題より選出し、会長へ答申するとの報告であった。

経理部報告

特になし

各種委員会報告

公益事業活動

次年度の医療セミナーin わかやまと全国健康と検査展との同時開催になるので、

理事各位に協力要請があった。

定款・渉外

特になし

精度管理

2月22日に平成26年度サーベイの計画と、再サーベイについての会議が行われた。再サーベイについてはコスト的に難しいということにより見送ることで決定したとのことであった。外れ値を報告した施設については、是正報告書を提出していく方向で行い、報告書を提出することを条件に参加証を交付することとなった。是正報告をしたにもかかわらず同項目2年連続で外れ値が報告されれば、再サーベイもしくはそれに類する対応を精度管理委員会で検討するとのことであった。

データ標準化

特になし

会誌編集

第42巻が発刊された。A4サイズになることでコストが上がる懸念したが、前年より若干安価になった。文字サイズが小さいかと心配したが問題はなかった。表彰審査委員には校正段階の原稿を送り審査してもらった。引き続き次年度も同様の運用を行うとのことであった。

ホームページ

特になし

会報

3月末までに編集を終え、入稿予定。総会までには発行したい。3月10日まで原稿を受け付けるので、協力をお願いしますとのことであった。35回学会報告については、学会実行委員会に要請するとのことであった。

行事予定

4月号から広告媒体が新レイアウトで掲載される。掲載広告が専用サイズであるため、既出企業の版下は昨年度の物を流用できるが、新規申し込み企業は版下提出が遅延する可能性が有る（専用サイズであるため作成・調整に時間がかかる）。よって、新規申し込みでかつ専用サイズが無い企業に対しては、枠取りの上企業名の記載のみで対応するとことであった。

会誌編集について、レベルアップも目指すうえで査読も含めた「投稿規定」を導入してはどうかという意見があった。

前回の理事会でも報告したように、一定のルールは必要でないかと編集委員からも意見が挙がっていたが、今年度の会誌募集には間に合わなかったとのこと。次年度からは考えるとの返事であった。

連盟

連盟執行委員会が1月24日に東京で有った。

先の参議院選挙で18,000票しか獲得できなかった結果をうけて、組織強化方針が出された。連盟組織を再編し、全国を7ブロックに分けブロック長を置き、都道府県単位の支部を設けて支部長を置き、役割を決め活動の足腰を強化するとのことであった。

まずは連盟会員数の増大をはかり次の参議院選挙に向けた活動に取り組むとのこと。

連盟執行委員任期は 6/1～5/31 の 2 年間。強化方針を受けて都道府県単位に連盟支部と支部長をおき、県単位で運営する。連盟の必要な事項について、会員との連絡、調整および情報交換をはかる。また、顧問を委嘱できる。

近畿ブロック会議で運天ブロック長のもと、ブロック内の連盟活動に関する事項や各都道府県における地域の政治活動に関する事項、各都道府県における政治団体に政治家との渉外活動に関する事項などを取り上げるとのことであった。

技師会行事などで、連盟コーナーを設け連盟加入の呼びかけを行うなど、連盟が独自の活動として取り組むので協力してほしいとのことであった。

連盟の加入用紙を配布するだけでなく、日臨技会費引き落とし指定口座からの引き落としも含めて今後の連盟会員数の増大をはかるとのことであった。

また、連盟と、公共性施設職員や技師会との関わり等どのように活動すべきかが手探り状態である。よって活動が緩慢になりがちであるため、今後はブロック会議等で活動方針が示されるであろうとのことであった。

技師会としては、切り離れた別組織としてバックアップする必要がある。学会等で連盟コーナーを設け加入を促し、会費を預かり代行振込も含めた対応も必要でないかとの意見があった。

技師でもある地方議会議員を招聘して勉強会を開催してはどうかとの意見もあった。

審議事項

施設長連絡会議について

理事会後に開かれる施設長連絡会議について、各部責任者の方は今年度の活動報告、ならびに次年度の活動計画について説明をしてくださいとのことであった。

学術部より

近畿臨床検査技師会解散に伴い、各府県技師会主催勉強会の参加費徴収について、主催技師会会員以外を非会員扱いとして参加料を徴収したいとの申し出があった。これには、各府県技師会によって金額や会員扱いの考え方が様々であるため、混乱を来す可能性が有る（ただし、日臨技助成企画についてはこの限りでない）。よって会員に周知徹底することが確認された。

和臨技としては従来通り、和臨技会員 500 円、日臨技会員 500 円、非会員（和歌山以外の府県技師会のみ）の会員やその他）は 1,000 円とする事で提案が有り、承認された。

会報について

精度管理報告会の記事を投稿してくださいとのことであった。

次年度総会について

総会議案書の配布を 5 月中旬までに完了する必要がある、スケジュールと入稿前の読み合わせを 4 月 5 日の理事会で行いたいと事務局から要請し、承認を得た。

その他

	<p>現役員は総会までが任期であるため、総会までの第1回・第2回理事会に参集する義務が有ることが確認された。</p> <p>また、引継ぎも含め、新理事も第1回・第2回理事会へ参集するよう要請する事が確認された。</p> <p>最後に、竹中副会長より閉会の挨拶が有った。</p>				
記録作成	平成26年3月16日	氏名	田中 規仁	提出	平成26年3月16日

※ 諮問委員会で「報告書」が提出される場合、「委員会議事録」が別途作成添付される場合は添付資料で可